



滋賀県の米原に帰省し、近くの丘から琵琶湖とかすむ山々を眺めた。「久方の 天の香具山 この夕べ 霞(かすみ)たなびく 春立つらしも」は柿本人麻呂が春先の夕べに大和三山の一つ香具山にかかる霞を詠んだといわれる。霞は微小な水滴やチリ、煙などによって見通しが悪くなる様を指すが、気象用語としての定義はない。

気象庁は見通しについて、水平方向で見通せる距離(視程と呼ぶ)と原因によって「霧」「靄(もや)」「煙霧」に区別している。霧は微小な浮遊水滴により視程が1キロ未満。靄は微小な浮遊水滴や湿った微粒子により視程が1キロ以上で10

2016.4.17



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

春霞

キロ未満。煙霧は乾いた微粒子により視程が10キロ未満の状態であり、原因物質が乾いているのが特徴。

煙霧は英語のsmog(スモッグ)に相当し、smoke(煙)とfog(霧)の混成語だ。ちなみに「五里霧中」の五里は2キロほどだから、霧よりは少し見通しがよいはずだ。一方、「光化学スモッグ」は工場や自動車から排出されるガスと強い日射が化学変化を起こして視程が低下する現象で、夏季を中心に起きやすい。

一般に気温が低下すると水蒸気が凝結して雲粒(微小な水滴)が生まれるが、水蒸気が多いほど凝結しやすい。春に気温が上昇すると、葉面からも水蒸気が活発に蒸発し、また細かいチリも浮遊しやすいので、朝や夕に気温が低下すると靄や煙霧も現われやすく、時には終日続く。(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



利根川辺りに位置する千葉県の神崎町を訪れると、菜の花が一面に咲き、西日を受けていた。与謝蕪村の句に「菜の花や月は東に日は西に」がある。実はこのような天文の状況は去る22日の満月の夕方に見られた。水戸では午後6時18分に日の入り、同6時19分に月の出だった。晴れに恵まれた所では、月と太陽が織りなす春宵(しゅんしょう)の珍しいドラマと夕焼け空に気づかれた人がいるかもしれない。こよいの月は、残念ながら日がとっぴり暮れた午後8時過ぎに昇るのでドラマはない。

2016.4.24



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

菜の花や

午前4時を過ぎると東の空が明るくなり始める。うたた寝をしてしまうと日がかなり高くなっているのに驚かされる。午後7時を過ぎてもまだ明かりがあり、昼間の陽がも残っている。

ちなみに4月(水戸)の平均気温(平年値)は12.5度で3月の6.7度に比べると格段に暖かい。まさに「春眠暁を覚えず」「春宵一刻値千金…」の候。

今は昼間の時間が約13時間半だが、毎日ほぼ1分程度の割合で夏至(6月21日)に向かって日の出が早まり、逆に日の入りが遅くなるので、北半球に注がれる太陽のエネルギーは中国大陸や太平洋をどんどん暖め続ける。やがて台風1号が発生する。しかし寒気が流れ込み、放射冷却が強い朝には思わぬ遅霜があるので、天気予報を確かめ園芸植物などにも注意が必要だ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)